

令和元年度 仙台市若林区区民協働まちづくり事業 企画事業
実績概要報告書（令和2年2月25日現在）

No.	事業名	担当課	ページ
1	子育て支援推進ネットワーク事業	家庭健康課	1
2	若林区健康づくり区民会議	家庭健康課	5
3	ライフイベント（婚姻届・出生届）記念事業	戸籍住民課	8
4	若林区安全安心街づくり活動推進 モデル地区事業	区民生活課	10
5	若林区の映像保存・活用事業	若林区中央市民センター	14
6	若林区地域学校連携推進会議	若林区中央市民センター	16
7	ポッチャをとおした区民地域交流促進事業	若林区中央市民センター	18
8	第31回 若林区民ふるさとまつり	まちづくり推進課	20
9	わかばやし区春らんまん	まちづくり推進課	23
10	第30回 広瀬川灯ろう流し “光と水とコンサートの夕べ”	まちづくり推進課	26
11	若林区魅力発信事業（わくドキまち歩き）	まちづくり推進課	28
12	地域メディアの活用による 新しい地縁 創造プロジェクト	まちづくり推進課	30
13	第26回 若林区合唱のつどい2019	まちづくり推進課	33
14	地域資源活用事業 六・七郷堀サポーターズ	まちづくり推進課	36

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

家庭健康課

2. 事業名

子育て支援推進ネットワーク事業

3. 事業の概要

・子育て支援活動をしている市民団体やボランティア区民、区内子育て支援機関等で構成する「輪っ！かばやし子育て応援団」による事業企画及び実施。事業内容は のびすく若林と共催で、若林区で初めて子育てをする方を対象にした交流会「ウェルカムサロン」の開催、乳幼児を育てている保護者の交流の場としての「育児サロン」の開催、保護者のリフレッシュを目的とした「親子ふれあいひろば」 地域子育て支援者研修会を開催した。

・輪っ！かばやし子育て応援団に参加している若林区民、育児サークル代表者、区内の幼稚園や保育所、児童館代表等とでマップ作成委員会を組織し、地域に根ざした子育て情報誌わかばやし子育て情報ブック「わっぴー」を作成配布。

4. 事業の目的・ねらい

地域における子育て支援の充実をはかり、支え合いながら楽しく子育てできる地域づくりを目的とする。

5. 事業の成果・効果

・子育て中の親子が身近な場所で地域の子育て支援者と交流し、地域の子育て情報を得ることで、親子の孤立化を防止し、楽しく安定した子育てに役立っている。

・区民が主体的に子育て支援に取り組むことで、地域の活性化につながっている。

・子育て支援者や子育て支援機関との連携がとりやすくなっている。

6. 事業費（決算額）

子育て応援団活動	育児サロン	30,000(講師謝礼・消耗品費・食糧費・会場費)
	親子ふれあいひろば	25,360(消耗品費・役務費)
	報告集作成	20,000(消耗品費)
	子育て支援者研修会	13,200(講師謝礼)
	運営費	162,000(講師謝礼・消耗品費・食料費)
子育て情報ブック「わっぴー」	作成検討委員会「わっぴー」作成	20,500(講師等謝礼) 231,000(印刷製本費)
合計		502,060

7. 実施状況

実施時期	実施内容
	<輪っ！かばやし子育て応援団>
4月～3月	子育て応援団活動委員会 10回開催予定 2月現在9回実施。事業や研修会の企画、運営について話し合い。 延べ参加者数 145名
	ウエルカムサロン
5月21日	4組 8名
9月18日	10組 20名
1月29日	7組 14名
	合計 21組 42人の参加
	子育て支援者研修会
10月21日	テーマ：「タッピングタッチ」 講師：一般社団法人 タッピングタッチ協会 インストラクター 花山 美佐代 氏 参加者：12名
	育児サロン
	<定例育児サロン 3か所 >
5～3月	下荒井サロン 10回開催予定 12月まで 親32人 子34人
5～3月	南材サロン 10回開催予定 12月まで 親55人 子55人
5～3月	古城サロン 9回開催予定 12月まで 親39人 子40人

	<地域育児サロン 2か所>
2月25日予定	かざぐるまサロン
6/27 9/26 12/19 2/27 予定	七郷移動児童館
	関係機関への協力
6/18 11/19 1/21	荒町児童館 親13人 子13人
7月10日	沖野児童館 親5人 子7人
9月25日	六郷児童館 親2人 子3人
1月14日	遠見塚児童館 親7人 子10人
7月24日	南小泉保育所 親13人 子25人
12月12日	ろりぼっぶ幼稚園 親12人 子14人
3月	活動報告集 60部作成予定
	<わっぴー(子育て情報ブック・マップ)>
5月	第1回子育て情報ブック作成検討委員会を開催。事務局より「わっぴー」の縮小版の土台を提示。しかし委員より「1枚の紙では掲載内容に限界がある、簡単に捨てられてしまう」と反対意見あり。方向性について結論に至らず、事務局で検討していくことを伝え、閉会となる。
8月	3~4か月児育児教室・1歳6か月児~3歳7か月児健診の8月受診対象者へ「わっぴー」の活用状況、子育て情報の収集に関するアンケートを実施。対象者431名、回収数327枚。回収率76%
12月	第2回子育て情報ブック作成検討委員会を開催。所内での検討状況を報告。委員からは「紙媒体での役割は終わりかもしれない、何かあればネットで調べる時代」、「ネットで調べる力のない人・外出できない人もいる。そんな母たちのために、発信できるものは必要ではないか」といった意見があがった。事務局としては情報発信の1つの案として他情報源から得づらい若林区独自の活動であるサークルやサロン、文庫は一覧表を作成する等、検討することを伝え、「わっぴー」は次年度版を作成し、終了の方向となる。
1~2月	印刷業者と契約。校正(3回)
3月	製版・印刷・納品。2000部発行予定。

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

輪っ！かばやし子育て応援団

- ・地域のニーズに沿った子育て応援団活動を目指し、今後も団員との話し合い、検討を重ねていく必要がある。

・「のびすく若林」にも平成29年度から当課とともに事務局を担っていただいている。子育て応援団とのびすく若林共催のイベントの開催、事務局としても話し合いを通じて連携をさらに深めていきたい。

わっぴー（子育て情報ブック・マップ）

H30年度よりデザイナーが不在となり、掲載内容の変更が困難となったことから、軽微な修正ができる内容にするため、1枚の紙へ縮小の方針となっていた。しかし第1回作成検討委員会で縮小版については反対意見があり、「わっぴー」作成の方針について再検討となった。検討時の参考にするため、8月に実施したアンケート結果としては、「わっぴー」の活用率は高くなく、子育て情報の収集方法としてインターネットが中心となってきた現状があることがわかった。また紙媒体も従来の子育て情報雑誌に加え、ナイミーやまみたん等情報源が増えており、そのなかから保護者自身で必要とする情報を得られていることが予測できた。その他、「わっぴー」作成の課題として「紙媒体で年1回の更新では、保護者のニーズに応えた情報を提供していくことは難しい」、「委員の自主性が乏しく、実行委員会形式になっていない。そのため事務局の負担も大きい」といったことがあがり、「わっぴー」作成を始めた当初と情報の取り方が変わってきている現状があることも考えると、「わっぴー」の役割は終わったのではないかという結論に至った。

9. 今後の事業の目標・展開等

輪っ！かばやし子育て応援団

地域のニーズに沿った活動となるよう子育て支援を実施する。

わっぴー（子育て情報ブック・マップ）

子育て情報ブック「わっぴー」は今年度版の軽微な修正のみを行い、次年度版を作成。「わっぴー」作成は終了とする。「わっぴー」に掲載していた若林区独自の活動である育児サロンやサークル、文庫等については一覧表を作成し配布する等、別の形での情報発信を検討する。

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

家庭健康課

2. 事業名

若林区健康づくり区民会議

3. 事業の概要

「仙台市いきいき市民健康プラン」の実施に向け、平成14年度に若林区内の市民団体や教育機関、関係団体で構成する「若林区健康づくり区民会議」を設置した。健康づくりの指針となる「若林区健康づくり行動計画」を策定している。現在、「第2期若林区健康づくり行動計画」のもと、区民協働の健康づくり事業として、健康づくりフェスティバルや健康づくりウォーキング講座、健康づくり寸劇の制作・上演などによる健康づくり啓発を実施している。実施にあたっては、関係団体により構成されている委員と、若林区の健康課題の分析や区民が取り組みやすい事業展開について検討している。

4. 事業の目的・ねらい

「区民会議」と行政とが協働で区民の健康づくりの推進を図ることを目的とする。

5. 事業の成果・効果

昨年度の若林区の健康課題の現状の分析に続き、健康課題を解決するためにライフステージ毎に指標を設定し、今年度重点項目に高血圧予防を掲げ共通のテーマで取り組んだ結果を含め、関係機関での意見や協働実施できそうな内容と照らし合わせながらの共有を会議を通して行うことで顔が見える関係の構築や、連携を強めることができた。健康づくりフェスティバルでは、運動に特化した内容に整理し、体験型のイベントを中心に開催することで健康への関心が低い方も楽しみながら運動を生活の中に取り入れるきっかけの機会となっている。健康づくり寸劇については、今年度は劇団員の募集を市政だよりで行う等により、活動団員の増員につながった。また子供世代から高齢者世代まで幅広いライフステージ毎に啓発できるツールとして有効であった。

6. 事業費（決算額）

（見込み額）	
講師謝礼	48,000
その他報償費	0
消耗品費	185,000
印刷製本費	189,980
食糧費	65,700
保険料	1,400
他利用料	0
合計	538,080

7. 実施状況

実施時期	実施内容
4月	若林警察署開所に伴うわかちゃんが1日警察署長でげんきくん体操を実施
6月	第1健康づくり区民会議 第1回健康づくりフェスティバル実行委員会 ウォーキングイベント開催（歩行美人になるコツ） 職域にて、高血圧予防をテーマに健康教育を実施
7月	第1回健康づくり行動計画推進部会 第2回健康づくりフェスティバル実行委員会 寸劇交流会
9月	第3健康づくりフェスティバル実行委員会 商業施設にてわかちゃんと共に高血圧予防をテーマに体験試飲会を実施。 六郷中学校へ「塩分と取りすぎない生活習慣の定着」とテーマに健康教育を実施。
10月	第4健康づくりフェスティバル実行委員会 若林区健康ウォークにてわかちゃんとげんきくん体操を実施
11月	健康づくりフェスティバルの開催 六郷保健センター 七郷保健センターでの体験型イベントでの啓発 第5回健康づくりフェスティバル実行委員会
12月	児童館フェスティバルにてわかちゃんとげんきくん体操を実施 健康づくり付箋の作成
1月	第2回健康づくり区民会議
2月	六郷市民センター懇談会にて「六郷の健康課題の共有と今年度の六郷における取り組みの報告及び今後の事業展開案のアイデア出し等の六郷の健康未来について」
3月	第2回健康づくり行動計画推進部会

8 . 事業を行ってみたいの問題点・課題等

「第2期若林区健康づくり行動計画」を元に主要事業を中心に展開してきた経過があったが、健康課題の分析の結果、主要事業のみでの展開での解決では限界があり、新たに重点項目を決めて、各ライフステージ毎での展開とハイリスクアプローチとしての地域介入・展開を区民や関係機関と共に広げていく仕組みの土台作りを丁寧に行っていく必要性はある。

9 . 今後の事業の目標・展開等

今年度、若林区健康課題の分析をもとに、各ライフステージ毎での事業展開及び重点地区での介入の取り組みを実施しており、次年度は区民や関係機関とともにアイデアを募りそれぞれの所属でも取り組みを実施していく広がりや仕組み作りを展開していけるよう取り組みの裾野を広げていきたい。

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業）

実績（予定）概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区役所戸籍住民課

2. 事業名

出生届オリジナルメモリアルカード作成事業（ライフイベント記念事業）

3. 事業の概要

・出生により新たに仙台市民（若林区民）となるお子さんと、そのご家族を祝することを目的として、若林区役所に出生届を提出される方々にメモリアルカードを作成し、記念品として提供する。

4. 事業の目的・ねらい

・出産という喜びに寄り添い、受け取った方々の心が温かくなり、地域を明るくする話題となるような記念品を作成する。
・区役所の中だけで決めるのではなく、アンケートを通して区民の方の声を聴き、幅広い年代の方が喜んでいただけるものを作成する。
・課の枠を越えた職員同士が連携を図りながら、同じ目標を達成する。

5. 事業の成果・効果

・今回作成のオリジナルメモリアルカードでは、仙台市を代表する祭りである仙台七夕で用いられた、市民の願いのこもった折り鶴や吹き流しの和紙を再生した「仙臺七夕祈織」を素材紙として使用した。出生子が仙台市民（若林区民）になったことに喜びを感じられ、お祝いの気持ちが込められているものとした。

・若手職員が主体となって区民の方々の意見も取り入れながら、職員が一体となって動き、普段とは違った職務を経験することにより、職員自身のスキルアップにもつながった。

6. 予算

30万円

7. 実施状況

実施時期	実施内容
令和元年度	
6月4日	第1回打ち合わせ
7月25日	第2回打ち合わせ
8月1日	第3回打ち合わせ
8月19日	第4回打ち合わせ
8月23日	新米パパ・ママ講座にてアンケート実施
10月3日	第5回打ち合わせ
10月10日	第6回打ち合わせ（副区長・関係課職員と打ち合わせ）
10月17日	第7回打ち合わせ（委託業者と打ち合わせ）
10月31日	第8回打ち合わせ
11月27日	第9回打ち合わせ（委託業者と打ち合わせ）
11月28日	副区長に進捗報告
12月18日	第10回打ち合わせ（副区長・関係課職員と打ち合わせ）
12月19日	第11回打ち合わせ
1月27日	第12回打ち合わせ（副区長と打ち合わせ）
2月10日	第13回打ち合わせ（副区長・関係課職員と打ち合わせ）
2月14日	第14回打ち合わせ
2月17日	第15回打ち合わせ（副区長・関係課職員と打ち合わせ）
2月28日迄	28日までには納品し、年度内には配布予定。

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

・WAK チーム Birth のメンバーは所属課が異なるため、各自の業務もありメンバー全員が集まる機会が少なく、事業を進める上で、試行錯誤の連続だった。
--

9. 今後の事業の目標・展開等

・今後、オリジナルメモリアルカードの配布を行い、区民の方々に喜んでいただきながら若林区の魅力の発信を行っていく。
--

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

区民生活課

2. 事業名

若林区安全安心街づくり活動推進モデル地区事業

3. 事業の概要

安全安心の地域づくりを効果的に推進するため、モデル地区に指定するエリアを抽出し、町内会（連合町内会・単位町内会）を中心に区内の学校や各種団体、区、警察などの機関が連携し、事業を展開する。

令和元年度～令和2年度の2ヵ年度におけるモデル地区については、薬師高砂堀通り周辺地域をモデル地区として防犯に関する事業を展開する。

4. 事業の目的・ねらい

仙台市安全安心条例に基づき、区・警察・消防などの関係機関が連携し総合的な支援を行い、区民と一体となって地域力を高めること、市民が安全に安心して暮らせる住みよい街の実現を目指すものである。

当該事業におけるモデル地区の指定については過去連合町内会単位で展開していたが、ピンポイントな地域のネットワークづくりを重点とした事業に注力するため、前回（平成29～30年度）からこれに捉われない地区選定を行っている。

今回のモデル地区は、仙台市営地下鉄東西線の開発と並行して整備された薬師高砂堀通りを中心とし、会員の構成は周辺の町内会、防犯関係団体、学校機関が軸となっている。

同通りは本市が当該地下鉄の開業に合わせ施策した「東西線沿線まちづくり基本方針（改定）」において、地下鉄薬師堂駅前地区と若林区役所周辺地区が一体となり、当区を中心となる街区形成に必要なものと位置づけられている。また、当該地域は仙台市実施計画（H28～30）において、「若林区役所と薬師堂駅を基軸とした賑わい創出事業」として各種事業が実施された経緯がある。

一方、同通りは近隣学校の通学路に指定されているが、この間不審者事案が発生し、近隣の学校や町内会より防犯に関する相談や要望が当区に寄せられており、当該地域における防犯に対する不安や関心が高いものと思慮されることから、上記の街づくり、賑わいづくりの形成を土台から支えるものとして本事業を位置付け、当該地域において展開するものである。

5. 事業の成果・効果

本事業は令和元年7月29日(月)に発会式、続いて令和元年10月28日(月)に第1回全体会議が行われ、今年度年間活動計画の承認を得ている。

今年度は防犯パトロール活動の実施に向けた準備として、危険個所を確認する現地調査を行っている。

また、現時点では各関係機関との顔合わせや情報共有を目的としたものとなっており、本格的な事業展開は次年度からとなる。

6. 事業費(決算額)

見込額

消耗品費	130,000円	活動用品(青色LED電飾ベスト)他
印刷製本費	49,000円	会報発行
食糧費	12,000円	会議用お茶代等

7. 実施状況

別紙「令和元年度 薬師高砂堀通り周辺地区安全安心街づくりの会 活動実績」の通り

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

各種防犯活動等の実施を目的とした本事業の本格的な展開は次年度からとなるが、これに先立ち、今年度行った幹事会での本会会員との今後の方向性に係る意見交換において、各会員から防犯カメラや同通りに係る設備改善要望の意見が出されている。本事業は各団体に対し、当初からソフト面(人的活動)での展開を以て旨とすることとして説明を行っており、発会後に表出した当該意見への対応について、事務局(区)として引き続き課題として捉えていかなければならないと考えている。

9. 今後の事業の目標・展開等

次年度年間活動計画に基づく各種防犯活動の実施、及び各団体において既に取り組まれている活動へ参加することにより、各団体間の連携を深めていきたい。

令和元年度 薬師高砂堀通り周辺地区安全安心街づくりの会活動実績

番号	事業名	月 日	内 容
1	第1回幹事会	9月30日 (月)	・令和元年度の活動計画立案 ・第1回全体会議の内容決定
2	第1回全体会議	10月28日 (月)	・令和元年度の活動計画の説明と承認
3	防犯パトロールに係る実地調査	12月2日(月) 12月3日(火)	・防犯活動の実施に先立ち、防犯観点からの危険個所の検証
4	次年度活動提案集約	1月	・安全安心街づくりの会各会員からの次年度活動に係る意見追加集約
3	防犯パトロール	2月 ～ 3月	・防犯パトロールの継続展開
5	第2回幹事会	2月17日 (月)	・令和元年度活動計画の検証と次年度活動計画についての検討 ・第2回全体会議の内容検討
6	第2回全体会議	3月中旬	・令和元年度の活動実績報告と総括 ・令和2年度の活動計画の説明と承認
7	会報第1号発行	3月下旬	・令和元年度の活動内容を地域や団体に周知 (町内会、各学校、周辺店舗等)
			<p>・上記活動のほか、以下の取り組みを実施します。</p> <p>防犯カメラ設置に向けた情報収集と意見交換 青色回転灯装着車両の積極的な運用の検討 地域内に看板・横断幕等の複数掲示</p>

事業用に購入した物品

青色 LED 電飾ベスト(30 着)



令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区中央市民センター

2. 事業名

若林区の映像保存・活用事業

3. 事業の概要

- ・若林区中央市民センターで活動している写真撮影ボランティアとともに、復興への取り組みや豊かな地域資源、史跡・旧跡の残る街並み、地下鉄東西線の開業に伴い変化していく区内の情報を収集・記録し、保存する。
- ・収集した情報を活用し、総務課と協力して次のことを行い、若林区の魅力を発信する。
 - ・市政だより若林区版に「若林の点描」として区内の風景写真と記事を掲載
 - ・「若林の点描」掲載写真等を使用したパネル展示
 - ・区内のイベントや季節の風景の写真を掲示板に掲示

4. 事業の目的・ねらい

- ・被災した地域の復興への歩みを記録していくことで、地域の変化していく状況を将来に伝える資料とする。
- ・地域で活動するボランティアの協力を受けて変化していく街の様子のほか、あらためて地域資源、史跡・旧跡などにも目を向けて収集した情報を発信し、若林区の魅力を再発見につなげていく。

5. 事業の成果・効果

- ・あらためて地域資源などに目を向けることで収集する情報の対象を広げることができた。
- ・収集した情報の市政だよりへの掲載やパネル展示、掲示板での掲示を行うことで、より広く発信することができた。
- ・これまで収集してきた写真データの分類・整理が進んだことで必要とする情報の検索が容易になった。

6. 事業費（決算額）

72,000円（予定）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
随時	区内の情報収集・記録
平成31年4月～	市政だより若林区版に「若林の点描」を毎月掲載
令和元年 1月～2月	若林区役所及び若林区文化センターにて「若林の点描」写真パネル 展開催
令和元年2月	若林区中央市民センター掲示板に区内のイベントや季節の風景 写真を掲示

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

- ・ 定例的な活動以上の事業の広がりにつなげることができなかったこと。
- ・ 収集した情報の分類・整理を進めているが、区役所ホームページの活用など情報発信の機会を増やす取り組みにまで至らなかった。

9. 今後の事業の目標・展開等

- ・ 新規にボランティアメンバーを募集して事業を行っていくためには、現在の進め方をいったんリセットしたほうが進めやすいとの判断から、今年度で一つの区切りとする。
- ・ 今後も引き続き情報の収集・発信は必要と認識していることから、どのような体制で行うことが適切か検討しながら事業展開を考えていきたい。

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区中央市民センター（仙台市嘱託社会教育主事研究協議会若林区部会と共催）

2. 事業名

若林区地域学校連携推進会議

3. 事業の概要

(1) 日 時 令和元年8月23日（金）14:00～17:00

(2) 会 場 若林区役所6階ホール

(3) 参加者 93名

}	小中学校・高等学校	地域連携担当者，嘱託社会教育主事
	区役所	区長，副区長，保健福祉センター所長，各部・課長 職員
	市民センター	館長，職員
	図書館・文化センター	館長，職員
	地 域	学校支援地域本部（スーパーバイザー・コーディネーター等）

(4) 内 容

全体会

〔活動紹介〕仙台市教育委員会学びの連携推進室より

仙台市教育委員会生涯学習課より

〔講 話〕 「地域で子どもたちを育てていく大切さ」

～ 教育現場の現状を踏まえて ～

講師：宮城教育大学 特任教授 庄子修氏（元仙台市立学校長）

エリア別情報交換会

各中学校区に分かれて情報交換

4. 事業の目的・ねらい

・若林区内の学校，市民センター，区役所，学校支援地域本部，社会教育施設など地域で活動する各種団体が相互理解を深め，地域課題を共有するとともに，連携を推進し，地域における豊かな教育活動を創出するための具体的な取り組みにつなげていく。

5. 事業の成果・効果

・嘱託社会教育主事研究協議会若林区部会の嘱託社会教育主事と区役所職員が打合せを持つことで，全大会の中での講話のテーマ設定や会議進行についても両者の考えを共有しながら運営できた。

・「地域で子どもたちを育てていく大切さ」の講話を受けて市民センター職員からは，「子どもたちの自己肯定感・達成感を高めることが大切で，職場体験等を通して，地域で

もその役割が果たせる可能性があることを改めて感じた。」との意見も寄せられ、今後の業務に対する新たな気づきの場ともなっていた。

- ・エリア別情報交換会では、各グループ内で課題が出され、その改善の取り組みにかかわる意見交換がなされた。
- ・昨年度の本会議後の連携の取り組み状況について集約した資料を事前に配布し、確認いただいた上で情報交換会を持ったことで、具体的な話し合いにつながった。
- ・小中学校の参加者からは、「学校の中だけでは気づかなかったこと、見えなかったことを知ることができた。」「立場の違いで考え方も違うということがよくわかった。これからも連携を図りながら、より地域で活躍する生徒の活動を作っていきたい。」などの意見をいただいた。

6. 事業費（決算額）

36,758円（消耗品費，食糧費）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
R元.8.1(木)	共催事業検討会（嘱託社会教育主事と区役所職員との事前打合せ）
R元.8.23(金)	若林区地域学校連携推進会議

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

- ・課題としていた「蓄積，取り組み事例の共有」については、連携実績をとりまとめ、資料として参加者に配布した。
- ・今後も取り組み状況の実施例を蓄積し、提供していく。

9. 今後の事業の目標・展開等

- ・引き続き、嘱託社会教育主事研究協議会若林区部会との共催により、当該事業を継続して地域の連携を作っていく。

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区中央市民センター

2. 事業名

ポッチャをととした区民地域交流促進事業

3. 事業の概要

ユニバーサルスポーツ「ポッチャ」の運営スタッフ育成講座を開催することで、競技の普及及び運営スタッフの育成を図る。

「ポッチャ」用具を購入し、区内市民センターへ貸出しを行う。

町内会や老人クラブなどからの要請に対して地域への出前による「ポッチャ交流会」を開催する。

区内市民センターと共催で「ポッチャ」を活用した各種講座を開催する。

4. 事業の目的・ねらい

- ・障害の有無や体力・体格差などに関係なく、一緒に実践できるスポーツ「ポッチャ」を活用し、地域間交流や世代間交流を図り、地域づくりの一助とする。
- ・ポッチャのルールや競技の進め方を学ぶ機会を提供し、地域への普及と運営の担い手を育成する。

5. 事業の成果・効果

- ・6人の参加者がポッチャのルールの基本から学び、実技についてもコート作りから審判までとゲーム運営についても体験できたことで、今後も続けてみたいという学習意欲の向上が見られた。
- ・事業最終年度と予定している令和2年度に向けた話し合いの中では、3名の受講者からさらに経験を積むことで運営スタッフとして活動していきたいとの意思の確認ができたことから、今後自立したサークルとして育成していくうえで核となる人材の確保につながった。
- ・町内会や老人クラブのほか、児童館への出前講座の実施により、地域への普及と参加者同士の交流を図ることができた。

6. 事業費（決算額）

168,000円（予定）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
10月10日(木)	講話:「ポッチャのルールについて等」
10月19日(土)	実技:「ポッチャを体験してみよう」
10月30日(水)	実技:「運営スタッフ体験」 ~コート作りや審判を体験しゲーム運営を学ぶ~
1月18日(土)	実技:「運営スタッフ体験」 ~競技運営を体験「ポッチャクラブ」への参加~
2月6日(木)	まとめ「交流会」

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

- ・昨年度実施した「ユニバーサルスポーツ・ポッチャ運営スタッフ養成講座」に参加した受講者を軸に今後のサークル化に向けた講座展開を予定していたが、継続して受講した参加者が少なく、新たに参加した受講者への学習に重点を置いてしまったため、地域での展開に向けた運営スタッフとして活動するまでには至らなかった。
- ・地域での活動に向けたスタッフとして育成しているという明確な目標を意識させる点が少し不足していたと感じている。

9. 今後の事業の目標・展開等

- ・今年度の受講者に対して次年度に向けた意向を確認したところ、3名の参加者から地域からの要請に対してポッチャの運営スタッフとして活動していきたいという意思の確認ができたことから、来年度の前半をさらなるスキルアップを図るための講座の開催にあて、後半については自立して活動できるサークル化への準備期間とする予定である。
- ・サークル化できた後についても、地域からの要請に対する調整など市民センターとして支援は継続していく。

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業）実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

第31回若林区民ふるさとまつり

3. 事業の概要

区民による実行委員会が主体となって、区民の総合的な交流の場を提供し、地域の交流推進と活性化を図る。区民の文化芸術活動の発表（ステージパフォーマンス、わたしの作品展、学校じまん）や地域資源を活用した企画（ザリガニ釣り、ザッコすくい、堀なか探検、伝統工芸館、弟子入り体験教室、若林の文化財展）、地元物産の販売などを行う。

4. 事業の目的・ねらい

若林区内における総合的な交流の場を提供することにより、区民意識の高揚や地域の活性化を図るとともに、区民協働によるコミュニティづくりを目指す。

5. 事業の成果・効果

「平成から令和～ もっともっと若林を好きになる」をテーマに、「第31回若林区民ふるさとまつり」を11月4日（月・振休）9時～15時に開催した。

● 区民の力が結集する一大イベント

当日までの準備には、若林区民を中心に30余名の実行委員が携わり、まちづくり推進課は事務局として実行委員会を支えている。また、当日は実行委員だけでなく、若林区に関わりのある多くの団体から協力を得ており、当日従事するスタッフは100名を超える。スタッフ以外にも、区内の商店会、同業組合、民間企業、官公庁、福祉団体、学校、個人など、様々な立場の人びとが出展・参加しており、まさに区民協働で作り上げた一大イベントであった。

多様な立場の人びとが協力してイベントを作り上げたこと、また、若林区ならではの企画を多く実施したことで、運営側及び来場者双方の、若林区への愛着の醸成や区民意識の高揚に寄与した。

● 新コーナー「弟子入り体験教室」

「伝統工芸館」に参加していただいている団体の協力のもと、まつり来場者が伝統工芸の職人から手ほどきを受ける企画。前年度まで作業の実演と作品の展示のみであったが、来場者に作業を体験してもらうブースを設けた。午前と午後の計2部50名募集のところ、午前中に定員を超える53名の申し込みがあり、好評だった。

従来の「伝統工芸館」は若年層を集客できていないことが課題であったが、この企画の参加者は児童が大半を占めていた。この企画を実施したことで、若年層に対

し若林区に今も残る伝統の技について効果的に周知できた。

- シャトルバスの運行
会場とイオンスタイル仙台卸町を1時間ごとに往復するシャトルバスを全5便運行した。いずれの便も満員で、相乗的に集客効果を得られた。また、かねてより課題として挙げられていたアクセスの悪さを一部解消することにも成功した。

6. 事業費（決算額）

5,120,5234 円（財源 仙台市共催負担金 4,050,000 円 ほか協賛金等）
令和2年2月28日時点

7. 実施状況

実施時期	実施内容
令和元年	
5月16日（木）	第1回実行委員会（全体会）
6月13日（木）	第2回実行委員会（リーダー会議）
7月26日（金）	第3回実行委員会（リーダー会議）
8月29日（木）	第4回実行委員会（リーダー会議）
9月2日（月）	フリーマーケット参加区画公開抽選会
9月20日（金）	第5回実行委員会（リーダー会議）
10月1日（火）	わたしの作品展出展者説明会 おまつり広場参加者説明会
10月5日（土）	ステージパフォーマンス参加者説明会 おまつり広場出店者説明会
10月18日（金）	第6回実行委員会（リーダー会議）
11月4日（月）	第31回若林区民ふるさとまつり
令和2年	
3月9日（月）	第7回実行委員会（全体会）
令和元年	
8月1日（木）～ 12月1日（日）	スポ・レク・フェスタ2019開催（全13種目）
その他班会議	
	・庶務班会議2回 ・広報班会議6回 ・わたしの作品展班会議6回 ・特別企画班会議6回 ・健康づくりフェスティバル実行委員会5回

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

- 情報の共有ができていない、指揮系統が統一されていない
実行委員会は班によって関わり方の深度が異なり、企画や協力相手との打ち合わせを率先して行う班もあればそうでない（事務局に丸投げの）班もある。
当日のみ参加するスタッフは、そのほとんどが実行委員会とは別の団体から出ても

らっており、実行委員長の指揮下に入っていない。また、実行委員会においても、班単位、企画単位のことしか把握できていない実行委員も多い。

9. 今後の事業の目標・展開等

- 事務局任せの体制からの脱却

前項で述べた通り情報共有が十分ではなく、また、準備に係る事務局の負担が大きい。これらは多くの実行委員から反省点・課題として挙げられている。

ある実行委員からは「役所（事務局）にしかできないこととそうでないことをはっきりさせよう。役所じゃなくてもできることは自分たちでやろう」という前向きな声が挙がっている。

今年度、実行委員会には若い（30～40代）新メンバーが7名加わり、来年度からも新たなメンバーが加入する。それにより「若手の発想で新たなまつりを作ろう」という機運が高まっている。

- 参加料等の減免適用団体の見直し

今年度より、参加料等の減免適用範囲を見直し、出店料とテント使用料のみを減免の対象とした。その結果参加料等は増収となった。今後は参加料等の減免を認める団体の精査が必要。

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業）実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区連合商店会 春らんまん実行委員会（まちづくり推進課）

2. 事業名

わかばやし区春らんまん

3. 事業の概要

29 回続けてきた春のイベント。区内の 7 商店会が加盟する「若林区連合商店会」が開催するおまつりで、地域と商店街が一緒になり、地域全体が元気になるまちづくりにつなげる事業。

- 開催日時：平成 31 年 4 月 14 日（日曜日）10 時～15 時
- 会場：若林区役所特設会場（若林区区役所南側駐車場）
- プログラム内容
 - ・開会式 紅白もちまき
 - ・和太鼓（連坊太鼓の会「雛鼓」、めとう会）
 - ・すずめ踊り（六郷すずめっこ）
 - ・昭和、平成の歌謡曲（よしあき）
 - ・マジック・バルーン（ワン・プラス・ワン）・アイドルグループ（chai rmans）
 - ・ビンゴ大会 他

4. 事業の目的・ねらい

若林区の活性化と地域住民との交流

地下鉄の開通に伴い、人の流れが変わり、地下鉄駅沿線の商店街と他の商店街で差が出てきている。これからは、商店街同士が相談し合いながら特色を出したまちづくりをしていかないと生き残れない厳しい状況となってきた。本イベントでの交流をきっかけに仙台市内で唯一の連合商店会として活動している商店会が若林区にあることを地域の方々に認識していただき、各商店会の連携のもと若林区を盛り上げていきたい。

商店会活動の活性化

地元の商店街を取り巻く環境の変化に伴い、これまで以上に町内会や住民との交流を重視していかなければ商店会の存続が厳しい時に来っており、交流の場の創出に繋げていきたい。

5. 事業の成果・効果

天候にも恵まれ、昨年より来場者数を増やすことができた。このイベントが地域に密着したものであるとして地元の方々に喜ばれているからだと感じている。協力の輪も年々広がり、地域の方々と共にイベントを続けていくことで、商店会の役割として地域活性化の一端を担うことができると思う。このイベントを続けることができているのは、連合商店会として頑張ってきた成果である。

区役所駐車場を使用しての開催は、行政と商店会が一体となって地域を盛り上げていこうと頑張っている姿を、ご来場いただいた皆様に見ていただけたと思う。

6. 事業費（決算額）

584,375 円（うち仙台市助成金 300,000 円）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
平成31年 1月23日	第1回実行委員会（出席者7名）
2月6日	プログラム内容と出演者について打合せ
2月13日	第2回実行委員会（出席者7名）
2月25日	A4 チラシ 6,000 枚、A3 ポスター100 枚印刷
3月1日	南小泉北部連合町内会他 13 町内会会長へ「回覧依頼・会場図」 朝市実行委員会・前年度出店店舗あてに依頼書を郵送
3月5日	若林区まちづくり交流会ポスターセッション参加
3月10日	駐車承認証の原稿作り、ポスター・チラシの区分け作業
3月11日	イベント保険（レクリエーション保険）内容確認
3月13日	第3回実行委員会（出席者7名） 南小泉小学校・中学校の協力分チラシを担当者へ
3月14日	南小泉北部連合町内会他 13 町内会長へチラシ他持参する。
3月15日	A3 ポスターの9分割カラーを3部コピーする 南小泉地区市政だよりへの折り込み（チラシ 680 枚）
3月18日	聖ウルスラ学園・若林文化センター・近隣住宅へ挨拶まわり 宮城第一信用金庫・仙台宮城野郵便局へ無料掲示
3月19日	宮城県議会議員・仙台市議会議員あてに参加状を郵送 仙台市若林区長・仙台商工会議所会頭・関係町内会会長・若林区まちづくり協議会あてに招待状を郵送
3月26日	仙台市若林消防署へ書類を提出する 地下鉄駅地域情報ボードへの掲載申請（連坊、薬師堂、卸町） 出店者へ必要書類を取りに来てもらう （チラシ・会場図・駐車承認証・出店注意事項・チケット用袋）
3月27日	町内会長へ案内状他を郵送 ビンゴゲーム特別賞商品を購入する
3月31日	地下鉄駅ポスター掲示「連坊・薬師堂・卸町」来年度1か月
4月2日	14日当日堀DAYさんぽ参加者へのチラシ配布を依頼（50枚） ばど「無料掲載記事内容について照会がある」TEL
4月3日	第4回実行委員会（出席者8名）
4月9日	OH! バンデス出演 16時22分
4月13日	本部備品・ビンゴゲーム商品・のぼり 20本積み込み
4月14日	わかばやし区春らんまん実施日
4月15日	6時から1時間 会場周辺の清掃と点検を実施

8 . 事業を行ってみたいの問題点・課題等

ビンゴゲームへの参加者がこれまでに比べて多かったが、出店テントでの売上げが来場者数を考えるとあまり伸びなかった。

お客様の購買方法が変化してきており、イベント会場を回りながら一日を過ごす時代ではなくなったように思う。これからは、プログラム内容や販売方法を考えないと来場してもらえなくなるかもしれない。

9 . 今後の事業の目標・展開等

個人商店の必要性を若い人たちにもアピールして、商店街の楽しさや、個人商店主の知識や経験などに触れてもらえるような街をつくれるように頑張っていきたい。

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

広瀬川灯ろう流し実行委員会（まちづくり推進課）

2. 事業名

第30回広瀬川灯ろう流し“光と水とコンサートの夕べ”

3. 事業の概要

広瀬川の河川敷（宮沢橋～広瀬橋）に特設会場を設営し、野外コンサート、花火打ち上げ、灯ろう流し、縁日コーナーを開催する。

- ・ 開催日 令和元年8月20日（火）
- ・ 開催時間 午後3時～午後9時
- ・ コンサート 地元の高校生による吹奏楽の発表その他公演
- ・ 花火 午後8時00分頃～午後8時30分頃

4. 事業の目的・ねらい

市民の誇りである広瀬川の歴史や文化にふれることにより、広瀬川の自然を認識する。また同時に催事を通して市民の交流の場としてコミュニティを図り、地域（特に太白区・若林区）の活性化につなげたい。

5. 事業の成果・効果

今回もコンサートや花火、縁日等を楽しみに約4万人の来場者があった。コンサート第一部及び第二部では、宮城県仙台南高等学校、常盤木学園高等学校による吹奏楽や宮城県仙台三桜高等学校による合唱、仙台市出身のアーティスト齋藤めぐむ氏のシンセサイザー演奏などイベントに華を添えた。また毎年好評の花火打ち上げは、鎮魂とともに夏の終わりを感ずることのできる企画として大いに盛り上がりを見せるイベントとなった。警察をはじめ、消防・警備・医療・行政の協力のもと滞りなく運営することができた。

本イベントは今年で30回目であり、継続して開催できているのは、地域に根差したイベントとして、市民の皆さまに受け入れられている成果であり、地域の活性化、賑わいづくりの一端を担っているのだと感じた。

6. 事業費（決算額）

8,039,000円

- 財源として、仙台市より補助金2,836,000円
- 若林区 1,418,000円（会場設営費、警備代）
- 太白区 1,418,000円（花火代）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
平成31年 2月 18日	事務局担当者会議
4月1日	第1回実行委員会全体会議
令和元年 7月2日	事務局・担当者会議
7月20日	第2回実行委員会全体会議
7月30日	事務局・担当者会議
8月2日	事務局・担当者会議
8月7日	事務局・担当者会議
8月20日	広瀬川灯ろう流し“光と水とコンサートの夕べ”開催
10月24日	事務局会議
10月28日	監査会

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

資金の調達に苦慮しており、河原町・長町地域で募金活動を行い、市民の皆さまのご支援により開催できているが、今後も継続して開催していけるかが課題。また、屋外でのイベントなので、天候によって来場者数に影響が出てしまう点。今年は天候に恵まれず、例年と比べると来場者数も少なく、灯ろうの売り上げが好ましくなかった。

9. 今後の事業の目標・展開等

太白・若林両区の夏の催事として今後も活動を続けていきたい。

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（事務局 若林区まちづくり推進課）

2. 事業名

若林区魅力発信事業（若林わくドキまち歩き）

3. 事業の概要

若林区への愛着や興味を促進させるとともに、地域の魅力を体感できるイベントとして、まち歩きを実施する。

4. 事業の目的・ねらい

他区と比べて若林区には目立った観光スポットが少なく、観光目的で足を運ぶ人は少ない傾向にある。そんな若林区の魅力を一人でも多くの方に知ってもらい、興味をもってもらうためのまち歩きである。何気なく通る道や地域でも、ガイドスタッフと一緒に歩くことで新しい発見があり、違った見方をしてもらうことで興味・関心をもっていたきたい。

5. 事業の成果・効果

今年度は全3回のまち歩きを実施したが、参加者のアンケートを見ると好感的な意見が多く寄せられており、当選倍率も2倍～3倍と人気の企画となっている。

特に9月29日（日）に実施した東部かさ上げ道路を歩いたまち歩きは、ラジオ・新聞にも取り上げられ注目されたまち歩きとなり、若林区東部沿岸部の様子を広く発信できたと思う。開通前の東部かさ上げ道路を歩く企画は、行政と市民スタッフの連携が円滑に行われ、それぞれの役割をしっかりと果たせたことで実現可能になったものである。

6. 事業費（決算額）

決算額（140,458円）	財源として市補助金 100,000円	
保険料..... 4,890円	消耗品費.....40,068円	バス使用料.....49,480円
参加者お土産代.....46,020円		

7. 実施状況

実施年月日	実施内容
平成31年 4月13日	「春満開 桜コース」 経路:地下鉄連坊駅 法運寺 松音寺 仙台一高 白鳥神社 陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス
4月24日	第1回若林わくドキまち歩き企画会議
令和元年 5月22日	第2回若林わくドキまち歩き企画会議
6月26日	第3回若林わくドキまち歩き企画会議
7月25日	第4回若林わくドキまち歩き企画会議
9月13日	第5回若林わくドキまち歩き企画会議
9月29日	「東部かさ上げ道路を歩こう」 経路:地下鉄荒井駅 藤塚避難の丘 マラソン&ウォーク特設会場 東部かさ上げ道路 震災遺構荒浜小学校 荒浜地区住宅基礎 農業園芸センターみどりの杜
11月6日	第6回若林わくドキまち歩き企画会議
11月16日	「南染師町と職人の技」 経路:地下鉄河原町駅 六七郷堀分岐点 六郷堀 愛宕堰 火力発電所跡 石橋屋 越後屋染物店 永勘染工場
12月4日	第7回若林わくドキまち歩き企画会議
令和2年 1月16日	第8回若林わくドキまち歩き企画会議

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

参加者の年齢層に偏りがあるので、若林区の魅力を幅広い年齢層の方に発信していけるよう広報・募集の仕方を考えていく必要がある。

9. 今後の事業の目標・展開等

参加者アンケートの要望やニーズを参考に、より満足度の高いまち歩きとなるようにしたい。また人を育てるという点では、スタッフ一人一人がまち歩きのガイドとして、区内を案内できるように、知識の継承や理解を深めていけるよう意識してまち歩きを行っていきたい。今後も、興味関心が引くようなコンテンツを創出し、若林区の魅力を発信していきたい。

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業）実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

地域メディアの活用による創造プロジェクト（「ラヂオはいらいん若林」制作・放送）

3. 事業の概要

地域の魅力と情報を発信するため、区民スタッフがコミュニティFM（ラヂオ3）の協力を得ながら、番組制作・放送する。

4. 事業の目的・ねらい

区民とコミュニティFM放送との協働・連携による地域情報番組づくり及び区民に向けて公開放送を通して広く区民のコミュニティ意識を高め、さまざまな角度から地縁に対する再認識と、ともに進めるまちづくりへの気運醸成を図る。

5. 事業の成果・効果

今年度は、5回の全体会議を開催し、7月6日から3月28日までの18の放送番組を作成した。番組の内容は、区内で開催されるイベントの様子、商店街の活動、地域で活躍する区民の紹介等をはじめ、若林区やまちづくり協議会の行事についても発信するなど、様々な角度から、まちづくりへの醸成を図るための番組制作に努めた。

広く情報発信を行うことで、区内のまちづくり活動を知るきっかけ作り、番組を通して地域や団体が繋がっていくための架け橋としての役割が果たせた。企画から取材、そして放送と番組制作の中で、区内で活動している様々な人と関わり、一緒にまちづくり活動を盛り上げていくことで、地域コミュニティの活性化に貢献できた。

6. 事業費（決算額）

844,901円（仙台市補助金 950,000円）（未確定）

委託料...842,501円 食糧費...900円

取材イベント参加料（若林わくドキまち歩き）...1,500円

7. 実施状況

実施時期	実施内容				
4月17日	第1回全体会議(体制等について)				
5月22日	第2回全体会議(7月~9月の放送内容の決定)、取材方法等の確認				
8月28日	第3回全体会議(10月~12月の放送内容の決定)、取材方法等の確認				
11月27日	第4回全体会議(1月~3月の放送内容の決定)、取材方法等の確認放				
2月12日	第5回全体会議 1年の反省、次年度の企画に関する方向性等について				
<ul style="list-style-type: none"> 放送期間：令和元年7月6日~令和2年3月28日 本放送：第1・第3土曜日午前10時~10時30分 再放送：第2・第4土曜日午前10時~10時30分 制作本数：18本 					
No.	放送日	テーマ	No.	放送日	テーマ
1	7/6 7/13	深沼ビーチクリーン	10	11/16 11/23	第31回若林区民ふるさとまつり
2	7/20 7/27	第26回若林区合唱のつどい2019	11	12/7 12/14	井土メダカ
3	8/3 8/10	ふるさとの杜再生プロジェクト「育成会」	12	12/21 12/28	若林シーサイドマラソン
4	8/17 8/24	柿洪団扇の復活(荒町商店街)	13	1/4 1/11	声の年賀状 ・白川由利枝氏(若林区長) ・高橋理武氏(河原町マルシェ実行委員長) ・木幡良彦氏(海岸公園馬術場所長)
5	9/7 9/14	新規就農(荒井)平松希望さん	14	1/18 1/25	ポッチャ若林区民大会
6	9/21 9/28	「INTILAQ」と「スタジオ開墾」	15	2/1 2/8	聖ウルスラ学院英智高等学校書道部パフォーマンス
7	10/5 10/12	「せんだ いわらアート」オープニング	16	2/15 2/22	「若林区未来デザインカフェ」
8	10/19 10/26	わくドキ「まち歩き」	17	3/7 3/14	若林区まちづくり交流会
9	11/2 11/9	こども相撲荒町場所	18	3/21 3/28	震災と桜

8. 事業を行ってみての問題点・課題等

<p>現在、毎週土曜日(第2及び第4が再放送)の10時から10時30分の時間帯で放送しているが(携帯やパソコンでも聴ける)、電波の制約もあり、どれほどの区民が聴取しているかの把握が困難である。リスナーの声を聴くための、手法を考えていく必要がある。</p>

9 . 今後の事業の目標・展開等

今年度は、市民スタッフに若い2人が加わり、新たな発想、地域や人との繋がりで番組編成も幅広くなり、番組編成会議も活気づいている。

今後、これまでの取材を中心とした番組編成に加え、地域の課題やまちづくりの取り組み等について、関係者による対談形式の番組も作成するなど、より魅力ある番組編成を計画している。

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

第 26 回「若林区合唱のつどい 2019」

3. 事業の概要

若林区文化センターを会場として、区内の小学生から大人までが参加する合唱の発表会を若林区合唱のつどい実行委員会（合唱連盟わかばやしと若林区まちづくり協議会で構成）を組織し開催した。

開催日：令和元年 7 月 6 日（土）

場 所：若林区文化センター ホール

4. 事業の目的・ねらい

仙台市若林区文化センターを文化発信の拠点として、若林区内の小・中・高の合唱団や吹奏楽部、「合唱連盟わかばやし」加盟の団体等が参加し、合唱を主体とした音楽祭を開催することで、地域の方々との触れ合いや交流を図るとともに、地域文化活動の活性化を目指す。

5. 事業の成果・効果

今年度は、「合唱連盟わかばやし」に加盟する 12 団体、区内の小・中学校が 3 校、高校が 2 校、そして福祉関係の 1 団体が参加した。また、特別企画として、聖和学園高等学校のチアリーディング部を招き、力強くも華麗な演技でオープニングを盛り上げ、プログラムの中間では、若林区吹奏楽団「チーム昭和」による「懐かしのメロディー」で会場を和ませている。

公募して結成する区民合唱団「宙」は、年々、参加者増加の傾向にあり、今年度は 60 名を超す団員数となり、団による合唱は、会場全体に感動を呼び起こし、合唱のすばらしさを発信することができた。また、最後の全体合唱は、舞台と会場が一体となり、「来年も会おう」との気持ちを共有することができた。

また、若林区まちづくり協議会が主催する「まちづくり交流会」のポスターセッションにも参加し、当団体の紹介などを行った。

合唱のつどいを通じて、地域の方々とのふれあいや交流の場が生まれることで、地域の文化活動の輪が広がることにより、参加人数も 800 名を超え、地域の文化活動の活性化の一端を担っている。

6. 事業費（決算額）

512,000 円（うち仙台市補助金 442,000 円）（未確定）

7. 実施状況

活動年月日	活 動 実 施 内 容
3月19日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」の募集チラシ印刷
3月22日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」の募集チラシ施設送付
3月29日	運営委員会
4月 1日	市政だより「区民合唱団『 ^{そら} 宙』」の募集
4月 2日～5月10日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」の受付
4月10日	若林区内の小・中・高への参加案内通知
4月26日	役員会
5月10日	運営委員会
5月27日	開催チラシ印刷
5月29日	公共施設等チラシ配布依頼
6月 1日	市政だより(開催のお知らせ)
6月 7日	参加団体全体会議
6月 8日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第1回)
6月15日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第2回)
6月17日	出版物許可申請
6月17日	来賓の案内通知
6月20日	文化センターとの打合せ
6月20日	運営委員会
6月22日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第3回)
6月27日	プログラム印刷
6月29日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第4回)
7月 5日	会場準備(山台組み・折込作業等)・リハーサル
7月 6日	合唱のつどい本番
7月26日	運営委員会

8 . 事業を行ってみたいの問題点・課題等

「合唱のつどい」の実行委員会の中心的役割を担っている「合唱連盟わかばやし」の高齢化が進んでおり、今後も継続していくためには、若年層の参画が必要である。

9 . 今後の事業の目標・展開等

課題等を踏まえ、持続可能な取り組みを基本としながら、更なる活性化を図るための協議を強めていきたい。若林区内に存する文化活動を継承するためにも、若い世代、特に、小・中・高校の参加を図るための策や区内で活動する団体への働きかけなどが必要と考えている。

令和元年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

まちづくり推進課

2. 事業名

地域資源活用事業（六・七郷堀サポーターズ）

3. 事業の概要

参加メンバー一人ひとりの知識や経験を活かし、六・七郷堀の歴史や環境・景観、暮らしとの関わりを調べ、堀の役割と大切さ・その魅力を多くの人と分かち合う方を企画実行する。「六・七郷堀サポーターズ」は、市民の視点から身近な水辺空間である六・七郷堀について考えるボランティアとして平成 18 年度に公募を行い、以降随時参加者を募集、令和 2 年 2 月現在の登録メンバーは 11 名。

建設局河川課（河川管理者）及び農林土木課（水路管理者）の協力を得て、円滑かつ効果的な事業の実施している。

【平成 31 年度の活動】

- 定例会（おおよそ月 1 回、事業の状況による）の実施（2 月末時点で 8 回）
- 一般参加者を募集しての堀散策イベント「堀 DAY さんぽ」の開催（4 月 14 日、9 月 29 日）
- 非公開（一般参加者を公募しない）フィールドワークの実施（6 月 2 日）
- 「第 31 回若林区民ふるさとまつり」特別企画の一つとして出展（「七郷堀！堀なか探検」の実施、堀に生息する生き物の展示、活動紹介パネル展示、堀 DAY マップの配布）
- 「環境フォーラムせんだい 2019」（FEEL Sendai 杜の都の市民環境教育・学習推進会議 主催）に出展（12 月 7 日）
- 区役所 1 階展示コーナーの管理（水槽 2 槽）
- メンバー同士の自主的な勉強会の場として、定例会の開始 30 分前より会議室を開放。各メンバーの個人的な活動や知識を共有する時間を設けている。
- 「堀 DAY さんぽ」開催に先立ち、イベント時に歩くコース（水路）の美化活動を行う。
- 児童生徒が地域に興味を持つきっかけに資すること、親水意識や環境意識を高めることを期待し、区内小中学校に堀 DAY マップを配布する。（平成 30 年度区民協働まちづくり事業評価委員会指摘・助言事項）

4. 事業の目的・ねらい

環境、景観、歴史といった側面で若林区の貴重な財産である六・七郷堀を活かし、まちづくりや地域との連携に結びつく事業を行う。

5. 事業の成果・効果

- 「堀 DAY さんぽ」を 2 回開催した。一般参加者を市政だよりで募集し、計 40 名が参

加した。「水路の中を歩く」という点で一般的なまち歩きとの差別化できており、その珍しさから、毎回定員以上の申し込みがあった。開催後のアンケートの結果から、参加者の水路や郷土史への興味を促進できたことが伺える。

- 「第 31 回若林区民ふるさとまつり」における「七郷堀！堀なか探検」を、水路へ自由に入出入りする形式に変更して実施。人数を限定しないことで、例年より多くの来場者（推計 50 名）が参加した。生き物の展示には、多くの来場者（特に児童）が興味を示した。児童やその親など、比較的若い世代に効果的に PR できた。
- 「環境フォーラムせんだい 2019」に初めて出展した。自主企画事業ではリーチできない幅広い年代の方に様々な角度から水環境・自然について啓発できた。同イベントにおいて他の出展団体と情報交換した。
- 区役所での用事を済ませた区民が 1 階の展示コーナーに立ち寄る姿が見られた。区民が若林区の堀に興味を持つきっかけとなった。また、まちづくり推進課ふるさと支援担当が今年度より飼育する「井土メダカ」とも並べて展示することで、相乗的に周知・啓発を行うことができた。
- 区内の小中学校に堀 DAY マップを送付したことで、ある小学校より、来年度の授業で堀 DAY マップを教材として使用したいと申し出があった。児童が地域について学ぶ一助になることが期待される。
- 河川課や農林土木課との協力関係が確立された。情報共有や相互の協力により、お互いの事業をより効果的に進めることができた。

6. 事業費（決算額）

計 70,669 円 以下内訳

食糧費、消耗品費...19,159 円 堀紹介看板修正費用...46,200 円

保険料（ボランティア・イベント保険）...5,310 円

7. 実施状況

実施時期	実施内容
平成 31 年	
4 月 14 日	堀 DAY さんぽ（七郷堀 河原町～若林区役所）21 名参加
4 月 19 日	定例会
（令和元年）	
6 月 8 日	非公開フィールドワーク（貞山運河 藤塚～荒浜）
7 月 11 日	定例会
8 月 21 日	定例会
9 月 17 日	定例会
9 月 29 日	堀 DAY さんぽ（高砂堀 薬師堂駅～卸町駅）19 名参加
10 月 24 日	定例会
11 月 4 日	「若林区民ふるさとまつり」出展（特別企画）
11 月 28 日	定例会

12月7日	「環境フォーラムせんだい2019」出展（全6回の実行委員会にも出席）
12月19日	定例会
令和2年	
1月17日	定例会 兼 懇親会
2月8日	七郷堀除草（若林区役所内）
2月28日	定例会（開催見送り）
3月27日	定例会（予定）

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年はイベントの開催を中心に活動している。イベント内容自体は大変好評だが、参加者を担い手側に引き込むことの難しさを感じている。また、現在はかつてと違い日常生活で堀の水を活用することが無くなったうえ、マンションなどに住む新住民も増え、堀に愛着や関心を持つ住民が少数派であることは課題である。 ・ メンバーの知識量に差があり、イベントでの講師役をいつも特定のメンバーが務めたり資料を用意したり、特定の個人への負担が大きい。 ・ 定期的なイベントの開催やイベントへの出展の定着により、堀および当事業の認知度は高まっており、それらにより「楽しさ」「にぎやかさ」を提供できている。しかし、堀（水路）・水と親しむまちづくりの機運を高めるまでは至っていない。イベントの開催のほか、より波及効果の高い方策が必要である。

9. 今後の事業の目標・展開等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 堀清掃など、地道ながら地域にもメリットのある活動を通して、住民のなかに賛同者を増やしていきたい。 ・ 近年の活動はイベントが中心だったが、草の根的に、地域の人たちとともに活動できる場（例：清掃活動など）を企画・実施する。 ・ 「イベントの開催だけでいいのか」という課題はメンバー間でも共通の認識である。今後はイベントの開催だけでなく、新たな方向性を模索していく。 ・ イベントの主催などサプライヤーとしての活動以外に、研究・学び（フィールドワーク含む）の時間を設ける。
